

復活節第3主日

第一朗読 使徒言行録 2・14、22-33

第二朗読 一ペトロ 1・17-21

福音朗読 ルカ 24・13-35

2026.4.19

カトリック高円寺教会 9:30

主任司祭 高木健次神父

わたしたちは、キリスト信者として、このように日曜日に教会に集まり、また、日常生活毎日でもその信仰生活を——それぞれのやり方ですけども——送っている。その理由は、一人ひとりがイエス様に呼ばれたからなのだと信じています。もちろん、表面的には色々な出会いやきっかけが別々にあるわけですけども、その根本的には——信仰の言い方をするならば——一人ひとりがイエス様によって呼ばれたのだというふうに信じています。

では、なぜイエス様がわたしたちをお呼びになったのか。教会は度々そのことについて話しますけども、それはまず、イエス様をご自分がなさりたいことの手伝いをしてもらうためということ以前に——以前にです——一人ひとりが今日の福音のように間違った方向に歩んでいる、あるいは、間違った道に迷い込むことを通して傷ついている、そのことに心を痛め、そして本当の恵みがどこにあるのかに会うように共に歩む、そのためにわたしたちにご自分を現わし、そして呼んでくださったということです。

迷いの道あるいは間違った方向というのは、決して抽象的な概念ということではなくて、それぞれいろんな形でわたしたちの心が間違った道——例えば周りの人や周りの状況に過度に期待しすぎて不満を募らせていく、その不満の道であったり、自分の担うべき人生を、あるいはその課題を他の誰かが代わりにやってくれないだろうかって他の人を探し続けるっていう、より頼みたいっていうその心、あるいはそれによって、そういう心を悪い者に利用されてしまうっていう依存の道であったり、また一人ひとりの中にある欲望とか——欲望とまで言わなくても——欲求というか、望みということを実現していかなければ自分の人生は虚しく過ぎてしまうんだっていうことを何か強迫的に思い込んでしまう、そういうような考え方——色々わたしたちの心は

一つの道というよりは色々な誤った道に心が別れて、それぞれ迷い入ってしまっているということがあるように思います。

それをイエス様ご自身が本当に自分のこととして心を痛め、一人ひとりが与えられた命を本当の意味で喜んで受け取り、そこで恵みに出会っていくことができるように、ご自分を現わし、わたしたちをご自分の元へと呼んでくださる。そういうふうにキリスト教の信仰では信じていると思います。

で、今日の福音では、そんなイエス様にどのように出会うことができるのかということについて語っていますけども、イエス様はたとえわたしたちが——今日のイエス様のセリフを借りれば——物が悪く心が鈍くて信じることができない、そういう者であったとしても、復活したイエス様ご自分を示さずにはおかないのだ。イエス様の力によってわたしたちは——自分自身の優れたところとか努力というよりは——イエス様ご自身のわたしたちに出会おう、呼び集めようとされる思いによって、わたしたちはイエス様に出会うことができる、その希望を語られています。

その今日の福音によれば、イエスに出会う三つの道が特に上げられています。1つは聖書の御言葉を通して、そして、もう1つが分かち合うパンによって——これをカトリック教会では特に秘跡あるいはご聖体と呼んでいますけども——広い意味での分かち合うことによって、そして、信じる者たちの共同体を通して。そこにイエス様に出会うことができるので、わたしたちは聖書を読むときに、またご聖体や、またその他の分かち合いの機会に、そして何よりもこの共同体に参加する、この教会に集まるときに、心の中で、「イエス様、どうぞわたしにご自分をお示してください」という祈りをもって、出会おうとする恵みを願うということが大切なのではないかと思います。

今日わたしたちをここに集められたのがイエス様ご自身なんだという信仰を新たにしながら、復活の主——ご自分を示し、そしてわたしたちを呼びを集めてくださる復活したイエス様——を信じる者同士として、互いにイエスとの歩み、そして共に歩んでくださる方をよりはっきり見るができるように、心にともしびが灯されて、そしてまことの恵みに出会っていくことができますように、互いのために祈り合いながら、このごミサをお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>